

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成30年8月22日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 6名	(依頼数) 9名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	38708001415
事業所名 (ユニット名)	グループホーム虹の里
記入者(管理者) 氏名	尾藤 みちる
自己評価作成日	平成30年7月30日

<p>【事業所理念】 ・「ゆっくり」「楽しく」「いっしょに」 その人らしく自立した生活の援助を行う。 ・地域の方々との交流を深める。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 (目標) 年間計画をたて、議題内容がサービスの向上に繋がるように取り組む(29年度に十分に、取り組めていなかった為) (取り組み) 会議の年間計画を作成し年度の初めにお渡しするようにした。講師をお招きし勉強会を開催した(訪問介護について・感染症について) (結果) 推進会議委員さんからは、予め予定と内容が分かっているので出席し易くなったと言われた。勉強会の内容についても好評を頂いている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 敷地内に様々な種類の施設が立ち並び、事業所は施設の2階に位置し一步中に入ると穏やかで静かな空間が広がっている。リビングではテーブルを組み合わせ、全利用者職員が輪になって座っており、お互いの顔が見られる状況での食事は会話が弾むなど、利用者職員が仲良くわきあいあいと暮らしており、孤独感を感じずに過ごすことができる安心感がある。ちゃぶ台を囲む大家族のようで、とても印象的であった。母体施設が大規模であり、法人内での人事異動もあるが、職員は皆朗らかで明るく、お互いに協力し気遣い合いながら支援している様子が窺えた。</p>
--	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	月1回のケース会で、利用者1人1人の思いについて検討している。	◎	/	◎	利用者個々の要望等については、散歩など1対1になれる場面で聞き取るようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人はもちろん、職員同士でも話し合っ把握している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会があった時には、よく知る人から「思い」について聞いている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケア記録表や申し送りノートなどを使って、共有化できている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の表情から汲み取って、本人の思いを見落とさないように支援している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時に、これまでの生活感をお聞きし、入居後は日常の会話の中からや面会時に情報を得ている。	/	/	◎	日頃の支援の中でこれまでの暮らし等について、さりげなく話を聞くよう努めている。職員が内緒話をしていると思われるよう他の利用者に配慮し、会話の時は、1対1の場面でさりげなく話をするようにしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	ご利用者の出来る事を見極めて、有する力の把握するように努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	家族さんやケアマネからも情報を得て、職員間で共有し把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	利用していたサービス事業所やケアマネから情報を得ている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	可能な限り、個々の過ごし方を尊重している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	面会時に、ご利用者とご家族の意向を確認している。	/	/	○	面会時に家族に意向を確認し、その情報を基にケース会議で利用者の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	介護経過支援実績表を作成し、それを元に実行している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	毎月1回のケース会で話し合っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム虹の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	共同生活の中で、なかなか個人の思うように動いていない。				ケース会議で、利用者や家族等関係者と意見やアイデアを反映するよう話し合い、介護計画の作成につなげている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	職員同士のケース会や担当者会議で話し合いができていると思う。	◎		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	できるだけ、本人が思うように動いてもらえるように支援している。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	定期的に地域ボランティアの受け入れを行っている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケア記録に記入し、介護支援経過表にて確認している。				利用者個々の介護計画の内容等を理解し、職員全員で共有している。毎月開催のケース会議で、利用者一人ひとりの日々のケアについて、介護計画に沿った内容かどうかを確認し、日々の支援につなげている。利用者個々の毎日の暮らしの様子について、言葉や表情等を記録している。利用者それぞれについて、職員の気づきなどを個別に記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	月1回のケース会を開催し、お一人お一人の日々の支援がどうであったか検討している。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	入居者同士の会話、ご家族との会話、職員との会話からその方の思いを記録し、ケアに繋げている。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	ケア記録に気づきを記入し、申し送りノートを活用している。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	特変がなければ、介護計画の期限(6ヶ月)で見直しを行っている。				介護計画は6か月で見直しをしている。利用者の状態に変化が見られない場合でも、毎月のケース会議で状態の確認を行っている。入院など大きな変化がある場合は、その都度見直しを行い現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ケース会時に月1回検討している。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	ご利用者さまの日々の様子をケア記録し、変化があればその都度新しい計画を作成している。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	基本は月1回のケース会で行うが緊急の場合は当日勤務の職員で話し合っている。				毎月1回、隣接のケアハウスと合同で職員会議が開催され、その後事業所内でケース会議を開催している。緊急で話し合いや検討が必要な場合は、その日の勤務の職員間でケース会議を行っている。参加できない職員には、申し送りノートにより伝達し共有するようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	ご利用者担当者が気づいた事、対応して欲しい事等それについて自由に意見交換出来るような雰囲気になっている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	月1回全員参加の職員会の後、ケース会を開催している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	職員間の申し送りノートを活用し伝達している。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	職員間用の申し送りノート(報・連・相)を活用している。				連絡ノートや申し送りノートを作成しており、ケース会議等に参加していなかった職員とも情報共有している。閲覧後に押印することで、確実な伝達に努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートを活用し、確認印を押して、情報を共有している。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	ご主人が筋力保持の為とフットマシンを持って来てくださっているのを1日1回30回～50回目様に足踏みしている。	/	/	/	衣類は自分で選んでもらえるよう支援しており、脱いだ衣類も利用者が自分で入れられるよう洗濯物専用のカゴを用意している。利用者に喜んでもらえるよう声かけに工夫し、楽しい時間を過ごしてもらえるよう場の雰囲気づくりにも努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	毎日の衣類交換を、本人が自由に選べるようにし、洗濯用かごを用意している。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	日々の会話から、その方の思いや希望をかなえるよう支援している。(夏祭り・図書館)	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	就寝前のくつろぎの時間を作りTVを見ながら、ゆったりした時間を過ごして頂いている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ラジオ体操、口腔体操、ことわざ遊び等で楽しい時間を過ごせるようしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	言葉を話せない方も、スキンシップ等のコミュニケーションを通じ、又表情や動作で思いをくんでいる。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	○	内部・外部研修にて学びの機会を設け、意識の向上に努め、尊敬の念を持ち入居者に合わせた対応を心掛けている。	◎	○	○	尊厳等については、研修等で学ぶ機会を設け、利用者のプライバシー等を常に意識し、尊敬の念を持ったケアに努めている。利用者の目線で、トイレ誘導などさりげない声かけに努めている。居室に入る際は、必ず声かけしノックするようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	必要以上に大きな声での声掛けはさけ、入居者の目線に立ち、考えた言葉がけをしている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	必ず扉(カーテン)を閉め確認、見守りを行っている。介助が必要な時には、説明を行ってから実施するよう心掛けている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	声掛けを行いながらノック入室している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	同意書にて制約しており情報(書類)の持ち出しや口外は禁止しており厳守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	何かする際には、必ず感謝の気持ちを伝えている。利用者からも、感謝の気持ちが表れることもある。	/	/	/	利用者同士の相性や関係性について、職員は十分に把握しており、配席を調整するなどさりげなく支援している。食欲が落ちている利用者にも他の利用者が声をかける等の様子も見られるなど、利用者同士はいい関係が築けている。もし利用物同士が不穏になりそうな場合でも、職員が仲介しトラブルにまで発展することはない。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々の暮らしの中で、共有、共感することで、お互いを理解し信頼関係を築いている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者間の関係を把握しており、適宜席替えを実施することで円滑な関係性が維持できるようにしている。また、職員が仲介することで、孤立しないよう配慮している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が仲介に入り適切な声掛け、場面転換を行っている。当事者と他利用者の両面のサポートを職員間においても連携を取りながらケアを行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時に、しっかりとアセスメントを取ることで把握に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時、ご家族に事業所のアセスメントシートに記入していただいたり、聞き取りにて情報収集している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	季節に応じた外出行事や、ご家族に協力してもらっての外出を実施している。友人や知事が訪ねて来手下さる。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	清潔感のある居室にするためこまめな清掃を実施している。花を飾る等、家庭的な雰囲気作りに努めている。 来客時には、笑顔で対応できるよう心掛けている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	一人一人の希望には添えないこともある。 施設内外の散歩。季節に応じた外出やご家族の協力を得ての外出・外泊支援も行っている。	○	×	○	利用者皆で近くの地蔵参りに毎週出かけており、近くの場所であれば重度の利用者も含め外出ができています。デイサービスのフロアなど敷地内や周辺の散歩は日課になっており、車いす利用者であっても日常的に出かけている。利用者の希望を聞きながら季節の花を見に出かけることも多い。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	ふれあい相談員さんや、民生委員の方々の情報を元に地域の行事の参加を計画し可能な限り外出できるように努めている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車椅子対応にて、外出支援を行っている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	入所前に熱心に参加をされていた教会に、不定期ではあるがご家族と外出されている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	内部・外部研修にて学びの機会を設け、理解に努めている。利用者一人一人の変化や症状に対して職員間で情報共有し一貫性のあるケアが提供できるよう努めている。	/	/	/	利用者が自分でできる事柄は積極的に取り組んでもらっており、職員はゆっくりと見守り待つ心がけ支援している。トイレ誘導の際には、あえて少し手前で車いすを降りてもらい、下肢筋力低下予防に努めたり、レクリエーションとして体操も取り入れるなど工夫している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	内部・外部研修にて学びの機会を設け、理解に努めている。日々の生活の中で一人一人の残存機能を活かしその方の出来る事を見つけ出し、家事全般、排泄動作、歩行、レクリエーションを通じて無理なく自然に維持向上が図れるよう支援を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動するようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者の個々のペースに合わせ、最小限の声掛け、見守りをするように努めている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者の出来る事、希望に添ったレクリエーションや楽しみごとが提供できるよう努めている。	/	/	/	配膳や洗濯物畳み等は、基本的に利用者をお願いしており、皆できる範囲で取り組んでいる。おやつ作りを利用者と一緒に行ってみようという計画であり、手打ちうどん体験も依頼しているなど、利用者一人ひとりが意欲を持って暮らせるよう支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	ここでの暮らしを維持していく上で本人の気持ちを大切にしながら、役割を持って過ごしていただけるよう、介護計画書にも盛り込み、意欲を持って暮らしていただけるよう支援している。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の中での役割は難しい。 可能な限り、地域に出向いていけるよう努めていきたい。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	鏡を見ながら髪を整えたり、お化粧をしたりされるのを本人の意思に任せ、見守りしている。	/	/	/	利用者の気持ちに配慮し、職員がさりげなく服装の汚れや整容の乱れなどを整える様子を窺うことができた。重度の利用者も含め、2か月に一度訪問理容を利用し利用者の好みの髪型にしてみようなど、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人や家族から情報を頂き、大切にされているカバンを外出時には必ず持参されている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人が、自己決定しやすいような言葉かけをするよう努めている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	夏祭りに参加する際は、自宅から浴衣を持ってきていただき浴衣を着てお祭りに参加していただいている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	本人の気持ちを傷つけないよう配慮した対応を心掛けている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	入所前からの行きつけの美容院に家族さんと一緒に行かれている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	毎日の整容、更衣介助時に、その人らしさが保てるよう支援に努め、清潔を心掛けている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	職員も利用者と一緒に食事する事で、理解できている。	/	/	/	利用者と一緒に会話を楽しみながら盛り付けや配膳をしている。毎月法人の栄養士が中心となって給食会議が開催されており、利用者からの要望等を伝えたりしているが、職員が会議にあまり参加できていないので、今後は積極的に参加し、利用者の好みのものや昔なつかしいものを取り入れた献立にするなどの取組みが望まれる。利用者一人ひとり使い慣れた食器を使用している。職員も一緒に円形になって皆で食事をしており、お互いの顔が見える環境での食事は会話も弾んでいる。重度の利用者も含め、大変穏やかな雰囲気であり、利用者は居心地が良い様子で会話を楽しみながら、昼食までの時間をのんびり過ごしていた。給食会議で利用者の栄養バランスを考えた献立になるよう話し合い、栄養士等専門家のアドバイスを取り入れるようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者の日々の体調などを見て、お手伝いしてもらうようにしている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	一部の利用者は、ケアプランの中にも入れて実行してもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居前や面会時に、ご家族さんやケアマネから情報を聞いている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	月に1回の給食会議で、利用者の意見や要望を伝えて反映してもらっている。が、その会議になかなか参加できていない。	/	/	△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	配膳時に一人ひとりに合わせて、刻みで提供。また、食欲が湧くように盛り付けの仕方も変えている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	一人ひとり、家族さんが持って来た物を使用してもらっている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	一人ひとりの様子を見ながら、時には会話もしながら、一緒に食事をしている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事の時には、隣に座ってお話をしたり、介助しながら支援している。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	利用者の1人が食事を食べようとしていない時があり、栄養バランスが摂れていない。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	拒否される場合は、時間を置いてから声掛けをしたり、工夫をして水分を確保してもらうようにしている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	給食会議やケース会などで話し合っており、それを栄養士に伝えている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	衛生管理の徹底をGH内で行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	歯科衛生士の指導のもと、口腔ケアの必要性を理解し、支援できている。	/	/	/	月1回、法人の歯科衛生士が訪問し歯磨き指導等を行っており、口腔内の状態や口腔ケアのポイントについては、口腔ケア実施記録として歯科衛生士が記録している。職員は、利用者の口の中の健康状況について常に確認しており、口腔内はいつも清潔が保持されるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	個々の口腔に合ったブラシ等を使用して、ご本人の力に応じたケアを行っている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	定期的に口腔ケアの勉強会がある。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	週1回、入れ歯消毒を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	時には声掛けをしたり、介助を行って口腔ケアをしてもらっている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	異常があった時には、早期の受診をするようにしている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	清潔を保持すると共に、排泄状況は排泄パターン表を利用し、出来るだけ本人の意思を尊重した声掛けにて気持ちの良い排泄へと繋がるよう努めている。失敗による意欲の低下やダメージを予防するために配慮した介助を心掛けている。	/	/	/	職員は、オムツ等の必要性についてケース会などで話し合い共有しており、利用者の状況に応じトイレでの排泄を基本にした支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食事や水分、運動、服薬などを総合的に考えて原因を探り予防に努めている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄表を活用したり、しっかりと様子観察し適時声掛け誘導を実施している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄表を活用したり、しっかりと様子観察し適時声掛け誘導を実施している。下着の上げ下げがスムーズに行えるよう尿取りのサイズや装着方法を話し合いながら取り組んでいる。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員会、カンファレンスの際に情報交換や検討を行い、統一のある支援が提供出来るよう努めている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄表を活用することで、状況や兆候に柔軟に対応できるよう努めている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	利用者の状態に応じて、尿取りの種類や、夜間、日中、外出時などで使用するものを使い分けている。本人や家族にも説明、相談し了承を得ている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	個々の身体状態に応じて、適切なものを使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分をこまめにとり頂いたり、牛乳やバナナは毎日とって頂いている。適度な体操と腹部の張り具合を確認し訪問看護師の助言を頂きながら便秘予防に努めている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	週3回の入浴と立位不安定な方には二人介助を基本としている。湯船につかる時間・順番・湯音にも出来る範囲で利用者の好みに添った支援を提供している。	◎	/	○	週3回の入浴で日時、順番、湯温など利用者の要望に沿った支援に努めている。重度化や終末期の状態でも、複数の職員で入浴介助している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	湯船につかる際は、しっかりと見守りを行いいつもプライバシーに配慮するように努めている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	残存機能を活用し、見守りや声掛け促しで対応し介助が必要な場合は最小限にとどめるようにしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む方においては、無理強いすることはせず、時間や職員を変えて対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎朝のバイタルチェックを基に、異常がある場合は、再検し再度見極めを行っている。入浴時、前後の状態をしっかりと観察し、必要時にはバイタルチェックを行い、本人にも気分をお聞きしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	入眠、起床時間、排泄時間を記録し把握に努めている。	/	/	/	現在は薬を服用している利用者はいないが、できる限り日中活動を勧め、夜はぐっすりと眠れるよう支援している。眠れない時には、テレビを観たり少しお菓子を食べたりして過ごしてもらうなど、安易に眠剤に頼らない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜間寝付かれない方においては、その原因について振り返り生活リズムを整えられるよう支援している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	現在服用している方はいないが、出来る限り薬剤を服用しないように、日中活動を増やしたり精神の安定が図れるよう支援に努めている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	その日の状態をしっかりと把握したうえで、睡眠は必要な方は、居室に案内し静かな環境で休んでいただけるよう配慮している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	字が書ける方には、暑中見舞いや年賀状に一筆添えて頂いている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙や電話がかけられない方には、職員がお気持ちを聞き、代わりに伝えるよう支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	携帯電話を所持している方には、自室へ誘導し、ゆっくりお話できるよう支援している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙やはがき等を壁に飾ったり、アルバムにして、いつでも見えるように配慮している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	お仕事をされているご家族の方には、事前に都合の良い時間をお聞きし、利用者が電話をかけたい時には支援している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	職員は、それぞれが自分の財布で買い物ができるよう支援する事を理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	外出支援の一環として、必要な日用品や衣類を買い物する時はそれぞれの財布で支払って頂いている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	先ず、職員が日頃からお店の方と顔見知りになり、利用者との買い物支援でも挨拶ができている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	ご家族の理解を得ながら、お金を所持したり、使えるようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	基本は、事業所で保管し、必要な時には所持できるよう本人や家族の了解を頂いている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かり金、出納帳を月1回提示し、家族に確認印を押して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	ご家族が、病院受診出来ない時は、付き添い支援している。	○	/	○	以前行っていた神社にお参りに行きたい等の要望があったものの、場所が分からず対応できずにいたが、運営推進会議で地域の方に相談してみたところ、神社の場所が分かり、その利用者を含め皆でお参りに行くことができるなど、柔軟なサービスにも努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関には虹の里の職員紹介と虹便りを毎月掲示し近況がわかるようにし、シンボル「虹」を利用者と手作りし飾っている。	◎	◎	○	事業所の玄関は施設の2階にあり、シンボルである虹の飾り物を、利用者と一緒に作成し玄関に飾っている。施設の玄関は広々としており、解放的な雰囲気である。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	皆さんで過ごせるフロア、一人になれる自室、気の合う者同志のが集える場所に椅子を配置している。	○	○	○	利用者全員がゆったりのんびり過ごせるリビングになっている。掃除が行き届き、こまめに換気するなど清潔感が保たれている。台所横の大きな窓からは緑豊かな風景が眺められるなど、四季の移ろいを感じられる景色が楽しめ、利用者は居心地よく過ごすことができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	共に生活する中で、空調や臭い、音や光など調整を行い、不快を与えないよう配慮している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	キッチンの窓からは、四季の移り変わりや、来客の様子を眺める事が出来るよう居心地良くしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	皆さんフロアソファでゆっくりと過ごせ、一人になりたい方は、自室に戻ってTVを見て過ごしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレがフロアと繋がっているが、プライバシーを確保し防火用カーテンを手作りし工夫している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	ご自宅で使用していたものを持ち込む利用者は少ないが、ホームで生活していく上で必要なものは、ご家族と相談して用意していただいている。又、大好きな歌手のグッズをお作りし、折に触れて楽しめるよう配慮している。	◎	/	◎	家族の写真などを利用者の好みに合わせて飾り、心地よい空間になるよう努めている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	各部屋の入り口やトイレの表札は目線の位置に掲示し解かりやすくしている。又、個々の身体機能に合わせて、ベットの位置を考え、出来るだけご自分で安全に動けるよう工夫している。	/	/	◎	居室入口の表札やトイレなどの表示は、利用者の目線の高さに合わせて設置され、利用者が安全に行動できるようになっており、自立した生活が送れるよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	薬品については、目に触れない場所に保管している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌、本は共有スペースに置くことで自由に取って見れるようにしている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	理解しているが、グループホームとケアハウスが廊下で繋がっており、日中の数時間はロックを解除しているが、職員の目が行き届かない時間は施錠させていただいている。ご家族にも、その件については了承頂いている。	◎	◎	△	職員は施錠された空間で過ごすことの弊害について十分に理解しており、事業所の外へ出ていく利用者にそっと寄り添うことができている。原則日中は施錠されていないが、職員の都合で施錠することもあるため、自由に入力できるような支援も検討することが望まれる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	必要時には、家族に状況を説明と共に相談や理解をいただいている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	利用者の行動パターンを把握を行い、見守りを徹底している。又、帰宅願望に繋がらないようなケアができる様に努めている。ケアハウスの職員にも、協力を依頼している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	基本情報から病歴や現病歴の把握は出来ており、服薬情報等にて確認を行っている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	些細な事でも変化があれば、個人記録や日誌、申し送りノートに記入している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	心身に異常があれば、迅速に家族に報告し、訪問看護にも連絡し状態を伝え、指示を仰いでいる。受診対応も実施している。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	ほとんどのご利用者が協力病院をかかりつけ医としているが、ご利用者が希望される病院には継続して受診できるよう支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	協力病院の受診時は職員が付き添い、専門医の受診時はご家族にお願いしているが、出来るだけ同行し情報提供できる様に努めている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診結果を家族に報告している。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際には医療機関に情報提供をおこない、ご本人を見舞い状態の確認とストレスの軽減に努めている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	医師をはじめとする各種専門職との情報交換を行うとともに定期的に病院内の地域連携課とも連絡を取り合い、早期の退院へと繋げられるよう努めている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	定期的に病院内の地域連携課とも連絡を取り合い、早期の退院へと繋げられるよう努めている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	医療連携にて、同法人の訪問看護ステーションから看護師が訪問している。気がついた事があれば、看護師に報告し指示を仰ぎ、適切な医療機関につなげている。又、介護に関する助言も頂いている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	医療連携にて、同法人の訪問看護ステーションが24時間相談できる体制となっている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	訪問看護や訪問診療により、健康管理支援が適切に行われている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	服薬一覧表を職員が把握し理解している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	一人一人の服薬保管ケースに入れ、飲み忘れ、誤薬を防いでいる。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	一人一人をよく観察し、異変が無いかを見守り声掛けをしている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	訪問診療時に報告をし、医師の指示のもと行っている。個別の受診記録にその都度記入している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム虹の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時、状態が変化した時には、事業所の方針と指針について説明をおこない意向を確認している。	/	/	/	医療機関等と連携が取れており、看取りの時期になると、家族や職員、主治医や訪問看護師等を交え、十分に話し合い方針を共有しており、職員も安心してケアに努めることができる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	事業所と訪問看護師で話し合いマニュアルを作成している。	◎	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員間で話し合いそれぞれ理解し、周知するよう努めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	説明時、「終末期意向確認書」を作成し、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	利用者の重度化が予測される時点で、職員や家族、主治医に情報提供を行い、相談し検討や準備を行えるよう努めている。出来る限り、本人や家族の意向に添えるようにしている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	何度も話し合いの機会を設ける事で、事業所と家族がより良い関係性になれるよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的に勉強会を行ったり、外部研修にて学びに場を設けている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルに添って訓練をし周知徹底に努めている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	発生状況の確認を常時行い、勉強会にて情報共有している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の発生状況を把握し、対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	外出先から帰る折など手洗いうがいを徹底している。来訪者についても、手指消毒をお願いしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	事業所や、法人で行う行事などに参加して頂くことで「家族と共に過ごしていただけるようにしている。	/	/	/	便りや面会時等を利用し、家族に行事への参加を呼びかけている。家族会は現在年に1回開催し、和やかな交流ができています。今後は回数を増やすことも検討中である。便りは3か月に一度発行しており、利用者の様子が家族に伝わりやすいよう写真を多く掲載するよう心がけている。日々の介護記録についても家族に目を通してもらい、確認の署名ももらっている。職員の異動や事業所の運営面等の報告事項については、面会時に口頭で伝えられている。面会時に気軽に相談等ができるよう職員が必ず声かけし、利用者の状況など常に情報共有するよう努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会の際は、気兼ねなく過ごせるような空間作りをしている。(居室で過ごす)	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	お便りや面会時にお知らせし、行事等に参加していただけるよう努めている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	三ヶ月に一回(虹便り)を発行し、近況報告や行事をご家族にお送りしている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	家族会、推進会議で意見をお聞きするよう努めている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご家族に昔の話を聞いたり、認知症についての理解、ご家族の思い出だけお聞きする機会を設けるよう努めている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	面会時や、電話等で報告するよう心がけている。	◎	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会を開催し家族間の交流に努めている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	予測できるリスクを説明し、家族と相談し対応を検討している。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時にはその都度近況報告を実施し、情報共有を心掛けている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居時には契約書や重要事項に添って説明を行い、事業所のサービス内容や方針についての理解を頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	情報提供を行いながら、本人、家族の希望も考慮しながら、安心安全に過ごせる退去先を検討し決定している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金変更等は、書面にて掲示し説明を行い、同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	同敷地内には特養、ケアハウスなどが法人の福祉施設が集まっており、開設時には法人として近隣の住民の方に対しての説明会を行ない理解を頂いている。	/	○	/	事業所は建物の2階に位置しており、事業所単独での地域との交流は難しい面もあるが、法人が実施している地域との交流イベントを活用し、今後さらに地域とのつながりを深める取組みに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	事業所があるケアハウスは地域から離れた場所にあるので近所付き合いは難しい状況にあるため、ケアハウスの入居者の方と行事を通じての交流等で良い関係を築いている。	/	×	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	法人主催の行事を通じての交流は継続的に実施できていると思う。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	ケアハウス内にある事業所なので、立地的に難しい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ケアハウスの入居者とは、日常的に挨拶を交わしたりしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	毎月一回ふれあい相談員の来荘があり、馴染みの関係を築いている。地域の小学校の慰問があり、交流を深めている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域の夏祭りに参加し、昔からの知り合いの方々との交流できる機会を設けている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	普段から、同敷地内にある、ケアハウス、デイサービス等に出向き交流を深めている。不定期ではあるが、図書館にも外出している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	年度始めに、開催計画書を送付させていただいている。毎回、ほぼ全員の方に参加を頂いている。	△	/	○	毎回利用者や家族、地域の方の参加もある。自己評価や外部評価等について、取組み状況等を報告し参加者に理解してもらうよう努めて欲しい。参加者一人ひとりから意見を伺うよう心がけており、出された意見は検討し運営に活かすようにしているが、地域住民にも理解してもらえるような具体的な取組みに期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	近況報告、ヒヤリ・ハット、入居者状況、勉強会を実施している。	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	委員の方々からのご意見を一人一人伺うようにしている。推進会議議事録として事業所内等においても回議書として周知するよう努めている。	/	×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたりはしていない。開催日時等については、年間計画書にてお知らせしていることもあり、毎回出席率は高い。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	推進会議議事録として事業所内等においても回議書として周知するよう努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	「ゆっくり」「たのしく」「いっしょに」を運営理念とし、玄関に入ってすぐのところに掲示している。理念を踏まえ、一年の目標についても作成し日々の暮らしに通じているが常に意識して取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	共有スペースに掲示し誰にでもわかるようにしている。	x	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	計画的に研修に参加できるように、本人の希望や経験等を考慮しながら研修に参加できるように努めている。	/	/	/	代表者は年に一度職員のストレスチェックを実施しており、ストレス軽減に努めている。年に2回、管理者との面談を通じ、職員の意見や要望等の把握に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	現在、1名の職員が初任者実務研修を受講中である。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年に二回人事考課表の提出にて、把握に努め反映している。外部研修にも参加できるよう、本人の希望等にも考慮している。現在、1名の職員が初任者実務研修を受講中である。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	市内のグループホーム交流会、市内のケアマネ会や県の地域密着型サービス協会の加入を行い適宜研修の参加ができる体制作りを行なっている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に1回、ストレスチェックを実施し、環境改善に努めている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	職員会や内部研修・勉強会、外部研修に参加し理解を深めている。	/	/	/	日々の業務の中で、職員同士で十分注意を払っており、虐待が疑われた場合の対処方法や手順等について理解できている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝礼時やミーティング時に話し合いの機会を設けている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	日々の業務の中で注意を払い、見過ごすことがないように努めており、発見時は速やかに管理者に報告し市への報告も怠らないように理解できている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	疲労やストレスの兆候を見逃さないように細心の注意を払い、業務に支障がないような環境作りに努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	学習会や外部研修に参加し、理解を深め全職員周知に努めている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	全職員が「身体拘束はしない」という方針で取り組んでいる。職員の何気ない言動が、目に見えない拘束へと繋がっていないか、また、どのようなことが身体拘束に当たるのか話し合う機会を設けている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	その都度説明や話し合いを行い、ケアの工夫の理解を得られるように努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	現在の所、制度を利用することはないが、全職員が権利擁護や成年後見制度を理解できるよう研修等に参加できる機会を設けていく。関係資料は何時でも閲覧できるようにしている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	状況に応じて情報共有や説明を行っている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	家族に説明し働きかけをしている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時のマニュアルを作成し定位置に保管し迅速な対応が行えるようにしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	急変や事故発生時の対応においては、マニュアルを作成し全職員が周知している定期的に。職員会にて「普通救命講習」の講習を受けている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	適宜記録を行い報告し、速やかに改善策や予防策を検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	行動予測をしっかりと行い予防策や再発防止のための検討を行い実施している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し書面にて報告するようにしている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルに沿って対応している。必要時には市町への相談や報告を行っている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに検討改善し、回答が出来るよう心掛けている。前向きな関係構築が行えるよう努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	ふれあい相談員、推進会議の委員の方々を通じて意見が聞けるような機会を設けている。	/	/	○	市のふれあい相談員が定期的に訪問し、利用者の意見を聴いている。家族からは運営推進会議や面会時等に意見や要望を聞くようにしている。職員は管理者との面談が年2回あるほか、管理者は現場に出ているので、普段から相談等があれば、いつでも気軽に話しやすい環境になっている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や面会時等にお聞きする機会を設けている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	併設施設であるケアハウスの1階に意見箱を設置している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	施設長は、運営推進会議に出席したり、毎日職員や利用者一人一人に声をかけている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	年2回の面談を行う他、適宜話し合う機会を設けるよう心掛けている。	/	/	○	

愛媛県グループホーム虹の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価に全員で取り組んでいる。	/	/	/	職員皆で自己評価を行って取り組んでいるが、今後は運営推進会議においても外部評価等について報告を行い、参加者から具体的なアドバイスをもらうことで、さらなるサービス向上に活かして欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価から課題が明確になりやすく、意識統一や出来ていない取り組みを再認識する良い機会になっている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	評価結果を踏まえ、取り組みの内容を職員全員で検討し実践できるよう努めている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	実施できていない。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所では、確認できているが、推進会議では確認できていない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害マニュアルを作成し定位置に保管している。	/	/	/	法人全体で避難訓練など災害への備えはできている。今後は、家族や地域住民も参加した避難訓練等を実施するなど、緊急時の連携強化に努めることが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回併設施設と合同で避難訓練を行ない、安全かつ迅速に避難できる連携体制を整えている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備や避難経路、保管食等は定期的に点検を行い交換している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年2回併設施設と合同で避難訓練を行ない、安全かつ迅速に避難できる連携体制を整えている。	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	年2回併設施設と合同で避難訓練を行ない、安全かつ迅速に避難できる連携体制を整えている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	推進会議にて定期的に認知症についての勉強会をしている。認知症キャラバンメイト(サポーター)の養成、啓発活動にも積極的に参加している。	/	/	/	相談体制が不十分な感があるので、法人の協力も得ながら事業所のPRにも努め、相談件数が増えるような取組みに期待したい。法人全体では認知症カフェや祭りなど、地域イベントも盛大に開催しており、地域とのつながりは強固である。今後はイベント内で事業所のブースを作るなど、事業所単位の活動も検討しており、地域の拠点となるような事業所を目指して欲しい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談がある時は、適宜対応できるよう心掛けている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	法人が実施している認知症カフェ(みかんカフェ)をケアハウスで定期的開催している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学校の職場体験の受け入れをしている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	職員が認知症キャラバンメイトとして地域啓発活動に参加している。	/	/	△	